

学校名	新座市立東野小学校
実施日	令和5年1月18日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、生活科・総合的な学習の時間を中心に学校の教育活動全体をとおして、学校の研究テーマ「主体的に思考し表現する児童の育成」に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな研究テーマを設定しての1年目であった。夏休みや2学期には大学の講師を招聘しての授業研究会等を行い研究を深めることもできた。今後は、成果と課題を共有化し2年目以降の研究につなげていくことが大切であると考えられる。 ・教職員が課題意識を持ちながら、児童の育成のために日常の授業改善につなげていくことが必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての研修等、今後の成果が期待される場所である。継続的に研修に励み、研修で得たノウハウを日常の授業の中で活用できるよう期待する。また、子供たちが主体的に思考するための手立てを十分に練って、子供たちの指導に取り入れてほしい。
2	学校はICTを活用し個別最適化された教育の創造をとおして、確かな学力の育成に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年を含め学校教育全般でクロムブックを活用できるようになった。 ・授業時間、朝の教育活動（すくすくタイム）などで、タイピングの技能を上げる取組やキューピナ、ロイロノートなどを活用した個別最適化の教育を推進することもできた。 ・学年や教科によっては、ICTを活用しながら自分で学習のめあてを設定し、課題解決に向けて学習をすすめる自由進度学習を取り入れることもできた。 ・故障やトラブル等も増加傾向にあるため、1人1台を継続するためにも管理や扱い方に関する対応もさらに検討していく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クロムブックを活用した授業が当たり前のように展開されている。授業を参観する際に、どの授業をみても全学年において活用が図れている様子を見ることができる。 ・今後は、取り扱い方のルール等を見直ししながら、個別最適化された学習が常に行われ、学力上位の子も低位の子も取りこぼすことなく育成できることを期待する。
3	学校は、教育活動全体（学級活動・委員会活動含）をとおして、目指す児童像（自立（ひとりで）・共生（なかよく）・健康（たくましく）」の育成に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちで考えて行動する」ことを、教員も意識して指導を行ってきた。その成果があらわれ、考えて行動できる児童が増えてきたと感じる。 ・学校だけでなく保護者・地域を巻き込んだ活動を展開することも必要であると考えられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全体を通して目標達成に力を入れていることが分かった。引き続き、家庭・地域を巻き込みながら課題解決に向け努力をしてほしい。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・主任を中心に、各々がしっかりと役割を果たしている。 ・職員数が減少したり、働き方改革で業務改善を図ったりしていることからより丁寧な連携体制を確保する必要がある。主任を主軸として機能的・構造的に学校運営できるよう整備していくことが必要であると考えられる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人員が不足する中で、教職員が協力し合いながらよくやっている。働き方改革は、喫緊の課題である。ボトムアップで意見を吸い上げながら、よりよい職場環境作りに努めてほしい。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の結果等が職員間で共有化されサイクルが確立されている。 ・課題となった項目については、より具体的な策をもって改善できるよう担当分掌主任と連携しながら進めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・経営方針を具現化するためには、あらゆる教育場面において、教育目標との関連を考慮することが必要である。課題を明確にし具体的な取組をもって改善していくことを期待する。

6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・避難訓練、安全点検は定期的を実施することができた。 ・不審者訓練に関しては、児童にもその必要性を理解させる必要がある。 ・校門、西門、東門の開閉、保護者等の車の乗り入れに関しては課題あり。多くの目で、児童の安全を守っていく必要がある。	B	・学校は安全な場所でないといけない。従って、あらゆる危機を想定しての避難訓練は必須である。また訓練を実施するだけでなく、教職員も児童も当事者意識を持って参加しなければならない。日常的な安全管理や安全教育を繰り返すことが、有事の際に行動として表れるものとする。
---	---	---	--	---	---

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	・学習規律、学習ルールに関しては学校全体で統一されている。しかし、ICTや社会情勢の変化、多様化にも対応した見直しが必要である。 ・学級単位でルールの認識のずれが生じているところもある。児童の実態に合わせてその都度見直し、共通理解のもと意識付けを行っている。	B	・学校全体でルール等、共有していることは素晴らしい。しかしながら、ルールや決まりは時代や環境で変化していくものなので、共通認識をもちながらも見直しをしつつ、誰にとってもわかりやすいシステム作りが必要である。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	・各教科において言語活動を重視した授業を展開している。その積み重ねが、少しずつ児童の思考力、判断力、表現力に変化を表しつつあると言える。 ・引き続き、ICTを活用しつつ、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。	B	・ICT機器を存分に使って授業が展開されている。その中でどのように言語活動を取り入れ、育成していくかが大切である。課題を明確にして思考力・判断力・表現力を高められるよう指導に当たってほしい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	・教職員は、児童の学力向上を目指し、日々、教材研究に励んでいる。ICT活用の指導においても、新しいことにチャレンジし、学び合う姿がみられている。 ・学年内での教科担任制を継続し、複数の目で子供たちを育成するとともに能力に即した学習指導を行えるよう取り組んでいく。	B	・教科担任制はとても有効である。今後もあらゆる学年で実施できるよう願う。子供たちの発達の段階や実態に即した個別最適な学習指導を継続できるように期待する。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	・全学年において、EETや外国語講師と協力して、計画的に指導が進められている。特に、5、6年生では、英語専科教諭が指導に入ったり、小中連携の視点から英語加配の中学校籍の教諭が6年生の指導にあたりたりしており充実している。	A	・先生方も日常的に外国語活動において努力されている。さらに東野小では英語専科教諭やEET、中学校の英語の先生等非常に恵まれた環境が整っている。来年度も子供たちの国際化やグローバルな視点から同じような教育を施せるよう期待したい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来客者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・あいさつや言葉遣いに関しては、日々指導を重ねている。児童も、それをわかっていると思うが、定着までではない。生徒指導部を中心に具体的な策を持って全職員で一丸となって根気よく指導していくことが必要である。 ・あいさつや言葉遣いは教職員の意識を高め、範を示せるように意識を高めていかなければならない。	B	・以前よりも挨拶をする児童が増えていると思う。先生方の指導の成果だと言えるだろう。しかしながら、さらなる定着を目指すためには、具体的な取組を行うとともに先生方の共通の意識を深めていくことが求められるところである。教職員が範を示し、よりよい環境を作っていくことが必要である。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	・月に1度の生活アンケートや日頃の児童の様子からいじめの実態の把握をし、迅速に対応できるよう努めている。また、必要に応じて外部機関との連携も図っている。 ・気持ちのコントロールができない児童、複雑な家庭環境の児童が多くなり、対応が難しい。	B	・いじめは絶対に許されないことである。アンケートや日常の観察をしっかりと行い、早期発見・早期解決に引き続き努めてほしい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	・毎月、生徒指導委員会を実施し児童の規範意識についての振り返りを行い教職員間で共通理解を図っている。 ・教師自身、話し方、態度、服装等は十分気をつけていかなければならない。	B	・教職員が範を示すことは、大切なことである。話し方や態度はもちろん、服装についても乱れることのないようお願いしたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
-----	------	------	-------------	---------	----------------

14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に向けて運動委員会による外遊びや運動の日常化の取組を行うことができた。 ・体力テストの結果をもとに課題を分析して、解決に向け体育の授業や休み時間、家庭学習等で継続して取り組むことが必要である。 ・今年度は水泳指導、運動会を実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力は生きる力の基盤である。健康で幸せな生活を送るためにも体育の時間だけでなく、学校教育全体をととして体力を高めていくことが必要である。ここ数年はコロナ禍で自粛していたが、今後は自信を持って今の取組を継続、発展させ子供たちの体力づくりに邁進してほしい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・給食時のメニュー紹介の放送等により食に関心を持てるようにした。 ・充実した食育指導が行われるようになってきたが、今後も継続して食育指導に努めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で対応が難しかったり食費が高騰する中で、工夫しながら毎日必ず給食を提供したりするなど学校は大変努力している。苦しい状況が続くが、引き続き食育指導を充実させ健康教育を推進してほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価等により学校教育についての理解を図っていただく機会をつくることができている。 ・保護者や地域の要望や意見は真摯に受け止め、迅速に対応できるよう努力していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の願いや要望は大切な意見である。学校は、知り得た情報に対して適切に対応できていると思う。引き続き、丁寧な対応を心がけたい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページは定期的に更新し、情報提供に努めている。 ・今後はICTをより活用し、保護者、地域の方に東野小学校を理解していただきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページが随時更新されている。今後もICTを活用し開かれた学校づくりに向け取り組んでいくことを期待する。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、学校応援団コーディネーターを中心に積極的な取組がなされている。環境整備や読み聞かせ等その取組に教職員の負担軽減が図られていることもある。 ・引き続き児童とボランティアの方々が一緒に活動できるような活動を計画していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団の活用は、子供たちのためにも教職員のためにも必要なことである。家庭・地域を巻き込んだ環境整備や安全確保のためにもさらなる積極的な連携を望む。